外濠市民塾
SOTOBORI SCHOOL FOR CITIZEN

「外濠 BAR」
おぼんカウンター作成

1. 実施概要
2. おぼんカウンターとは？
3. 実施状況
4. フィールドワーク
5. 所感

2020.11.29 (Sun)

実施概要

実施趣旨

これまでの外濠市民塾の活動では外濠の過去を学び、未来の姿について考え、外濠 Vision2036 の「外濠四季絵巻」として取りまとめてきました。外濠市民塾は次なるフェーズとして、取りまとめた理想の姿を自らの手で実現していく「実践」のフェーズを展開していきます。そこで、まずは自分達が外濠を利用することで外濠の可能性を広く周知していくことが重要であると考えます。

外濠市民塾ではその可能性を実現するために、外濠公園の高欄に取り付けることができる木製のカウンター「おぼんカウンター」の作成を行うことを提案しました。将来的には、それを道行く外濠公園の利用者に飲み物の配布とともに貸し出し、外濠を眺めながら人々の交流を促す「外濠BAR」の開催を目指します。木製カウンターは取り外しが可能で自分が気に入った場所に取り付けて利用することができるもので、これを用いて簡易的な飲食が行えるほか、コミュニケーションを誘発することもできます。

さらに、外濠市民塾では「実践」のフェーズにおいて、これまで以上に地域との協働を進めていきたいと考えています。外濠周辺の地域の資源や場所を活用しながら、近辺で活動する学生などと共に企画を行うことで、地域とのつながり・コミュニティのネットワークを強化していくことが重要だと考えます。

以上を踏まえて、今回の「おぼんカウンター」の作成企画を提案します。

実施要項

日時・会場

2020年11月29日（日）　13:00 - 17:00
Lowp（ロウプ）　地下1階（新宿区市ヶ谷左内町52）
外濠公園周辺

プログラム

1. 挨拶・趣旨説明
2. おぼんカウンターペイント
3. フィールドワーク
   ・外濠公園おぼんカウンター使用スポット
4. フィールドワーク報告

主催

外濠市民塾実行委員会

運営協力

法政大学エコ地域デザイン研究センター
東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室
東京都立大学大学院都市政策科学域　外濠研究チーム
三輪田学園
新宿区立四谷図書館
法政大学江戸東京研究センター
日本大学理工学部まちづくり工学科歴史まちづくり研究室
中央大学理工学部都市環境学科河川・水文研究室
大日本印刷ソーシャルイノベーション研究所
電通tempo

外濠市民塾実行委員会

委員長	陣内秀信（法政大学）
	福井恒明（法政大学）
	郷田桃代（東京理科大学）
	小松妙子（法政大学）
	高道昌志（東京都立大学）
	亀田和宏（大日本印刷）
	廣田幸司（大日本印刷）
	田崎渉（電通tempo）

学生スタッフ

法政大学	堀越義人 ・ 加計幸陽 藤田景 ・ 志村遥奈
東京理科大学	建内香子 ・ 冨田深太朗 宮崎守恵 ・ 土井久海 ・ 今泉実里
日本大学	菊原綾乃 ・ 品田康太 藤原諒也 ・ 金田正太郎
東京都立大学	安武覚 ・ 野村知穂 増田里奈 ・ 末廣香澄

参加者

外濠市民塾実行委員会

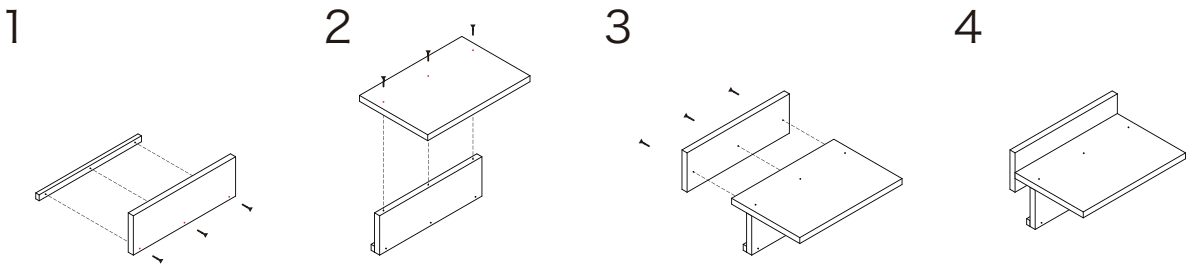
■ 学生	法政大学	4名	東京理科大学	4名
	日本大学	4名	東京都立大学	3名
■ 社会人・教員	7名			
三輪田学園	8名（引率教員1名含）			

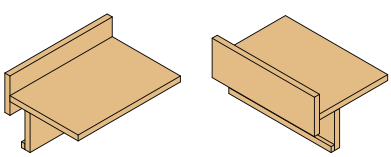
おぼんカウンターとは？

おぼんカウンターとは、外濠公園の高欄に取り付けることができる木製のカウンターです。外濠公園の柵に設置できる専用設計であり、外濠の風景を眺めながら飲食をすることが可能になります。柵にはめ込むように、設置・取り外しを行うことで自由な場所に設置でき、持ち運びも可能です。複数個連続的に並べて設置することで、バーカウンターのように細長いテーブルとしても使用することができます。

図1　おぼんカウンター使用イメージ

写真1　外濠公園でのおぼんカウンターの設置風景





おぼんカウンター

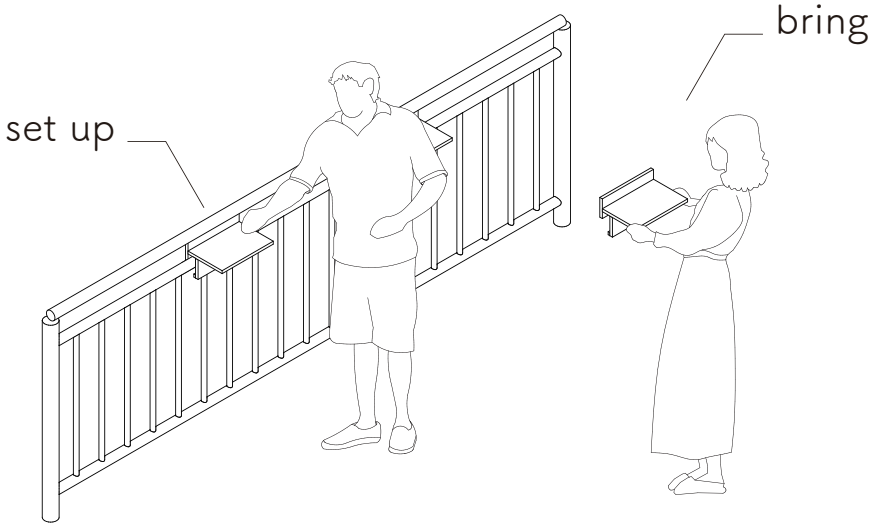


図2　おぼんカウンター設置フロー

実施状況

プログラム

9 : 00 - 11 : 30	**事前準備（おぼんカウンター作成）**	
13 : 00 - 13 : 05	**開会挨拶・メンバー紹介**	福井恒明（法政大学）
13 : 05 - 13 : 10	**趣旨説明**	堀越義人・加計幸陽（法政大学生）
13 : 10 - 14 : 30	**おぼんカウンターペイント**	
14 : 30 - 16 : 00	**フィールドワーク**	外濠公園おぼんカウンター使用スポット探索
16 : 00 - 16 : 20	**フィールドワーク報告**	
16 : 20 - 16 : 30	**総評・閉会**	

事前準備

2回の試行を経て設計検討した「おぼんカウンター」12台を学生スタッフが作成しました。

開会挨拶・メンバー紹介

第10回外濠市民塾（2019年8月）の開催以来、1年3ヶ月ぶりの開催となります。例年、春と秋を目安に市民塾を開催してきましたが、2020年は新型コロナウイルス流行のため一般に向けたイベント開催を見合わせ、実行委員会内部だけで活動検討を進めてきました。今回は三輪田学園の生徒さんにも参加いただいて一般には公開しない状態で活動を再開しました。マスク・フェイスシールドの着用、体温測定、アルコール消毒の徹底、室内換気を行いながらの実施となりますのでご協力をよろしくお願いします。今回の外濠市民塾の活動は法政大・東京理科大・日大・東京都立大の学生が協働して企画運営にあたってくれました。

写真2　福井恒明教授（法政大学）による開会挨拶

趣旨説明

第11回外濠市民塾開催にあたり、半年以上かけて議論を重ねてきました。学生チームでは、これまでの活動にも目を向けて活動の位置づけを確認しました。第1回～第6回を「学ぶ」、第7回～第10回を「考える」、そして第11回からは「実践」と位置づけて外濠を使いこなしていこうと決めました。

外濠市民塾実行委員会では、2019年3月に「外濠Vision2036」として外濠で実現したいアクティビティをポンチ絵で取りまとめてきました。これからは、そこに描いた理想の姿を実現する必要があると考え、そのきっかけの第1歩となる「おぼんカウンター」の作成を行います。「おぼんカウンター」とは外濠公園の高欄に設置することができる木製のカウンターです。

本日は、各班に分かれておぼんカウンターのペイント作業を行っていただきます。完成後、実際に外濠公園を歩き、おぼんカウンターの設置スポットを探してきてください。探しながら、カウンターを今後どう使いたいかについても議論してみてください。Lowpに戻り、班で議論した内容を発表してもらいます。みなさんに新たなおぼんカウンターの可能性を見出して貰えればと思います。

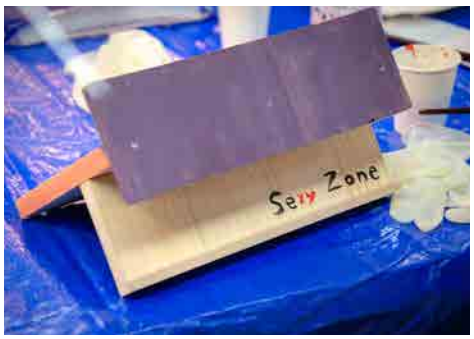
写真3　外濠市民塾学生チームによる趣旨説明

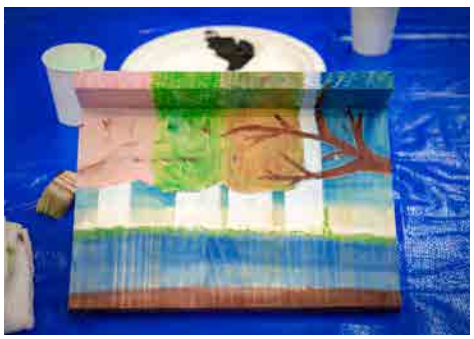
おぼんカウンターペイント

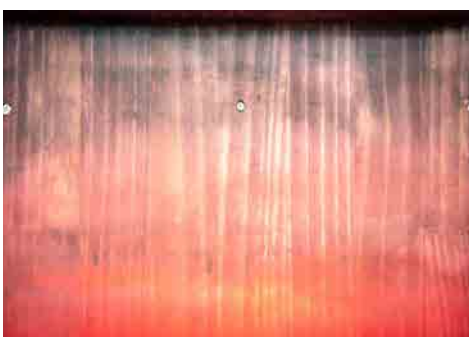
事前に準備したおぼんカウンターにアクリル絵の具を使ってペイントを行いました。三輪田学園からの参加者には吉田珠美校長先生を含めてひとり1台、学生スタッフは合計4台のペイントを行いました。

A、B、Cの3班に分かれて作業を行いました。

完成品ギャラリー







フィールドワーク　外濠公園おぼんカウンター使用スポット探索

ペイントしたおぼんカウンターは外濠公園の柵に設置できるように設計されています。外濠公園に移動し、公園内の柵におぼんカウンターを設置して、使い勝手を試しました。もともと飲食を想定していましたが、今回は感染予防のため飲食は行いません。

カウンターを使用するのに良いスポットを探し、選んだ場所からの眺めやその場所の特徴について議論しました。また、カウンターの使い方についてもアイデアを出し合いました。

写真4　フィールドワークの様子

フィールドワーク報告

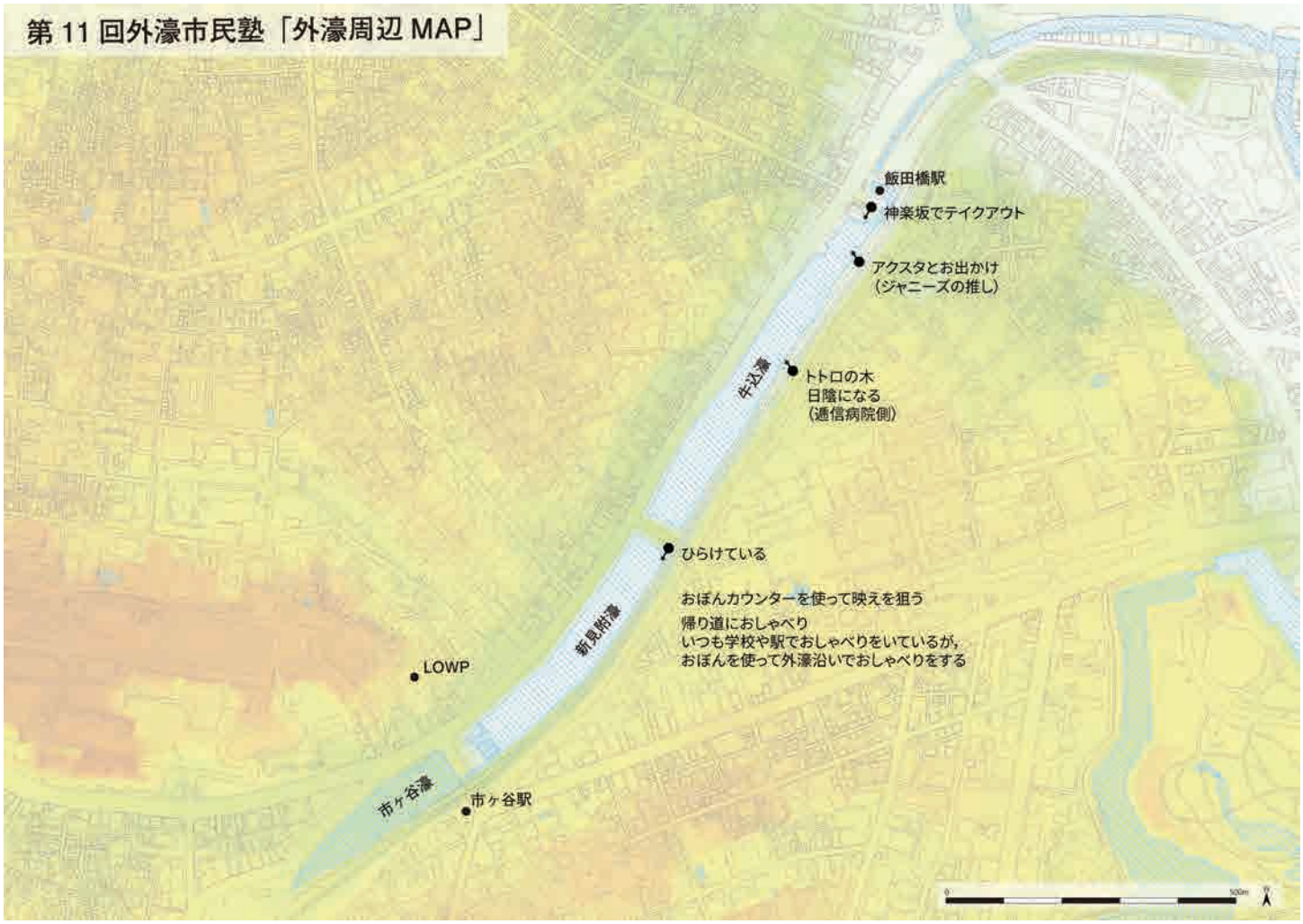
フィールドワークで確認したスポットの特徴やおぼんカウンターの使い方を、班ごとに写真を使って発表してもらいました。

Group A

Group B

Group C

Group A



サクラテラス前付近

- 対岸のカナルカフェの景色がよく見える場所です。
- おぼんカウンターを台にしてアクリルスタンドなどのグッズを撮る「推し映えスポット」として活用できます。

飯田橋駅前

- 牛込橋欄干におぼんカウンターがうまく設置できる箇所がありました。神楽坂や駅周辺でテイクアウトしたものを飲食するのに活用できそうでした。
- 外濠公園とは違う角度で景色を楽しむことができます。
- 歩道が狭く、人通りの多い時間帯では通行の邪魔となる可能性があります。また、線路の真上のため、物が落下しないような配慮が必要です。

公園内の見晴らしの良い場所

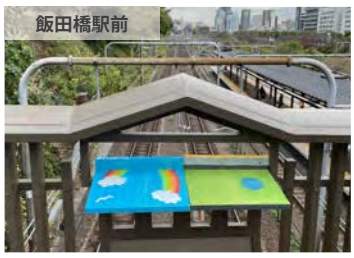
- 木々がなくひらけており電車が見やすい場所でした。外濠や電車を背景にしておぼんカウンターの写真が撮れます。
- 寄り道が制限されている三輪田学園生にとって、帰り道におしゃべりできる空間となります。

逓信病院前”トトロの木”の下

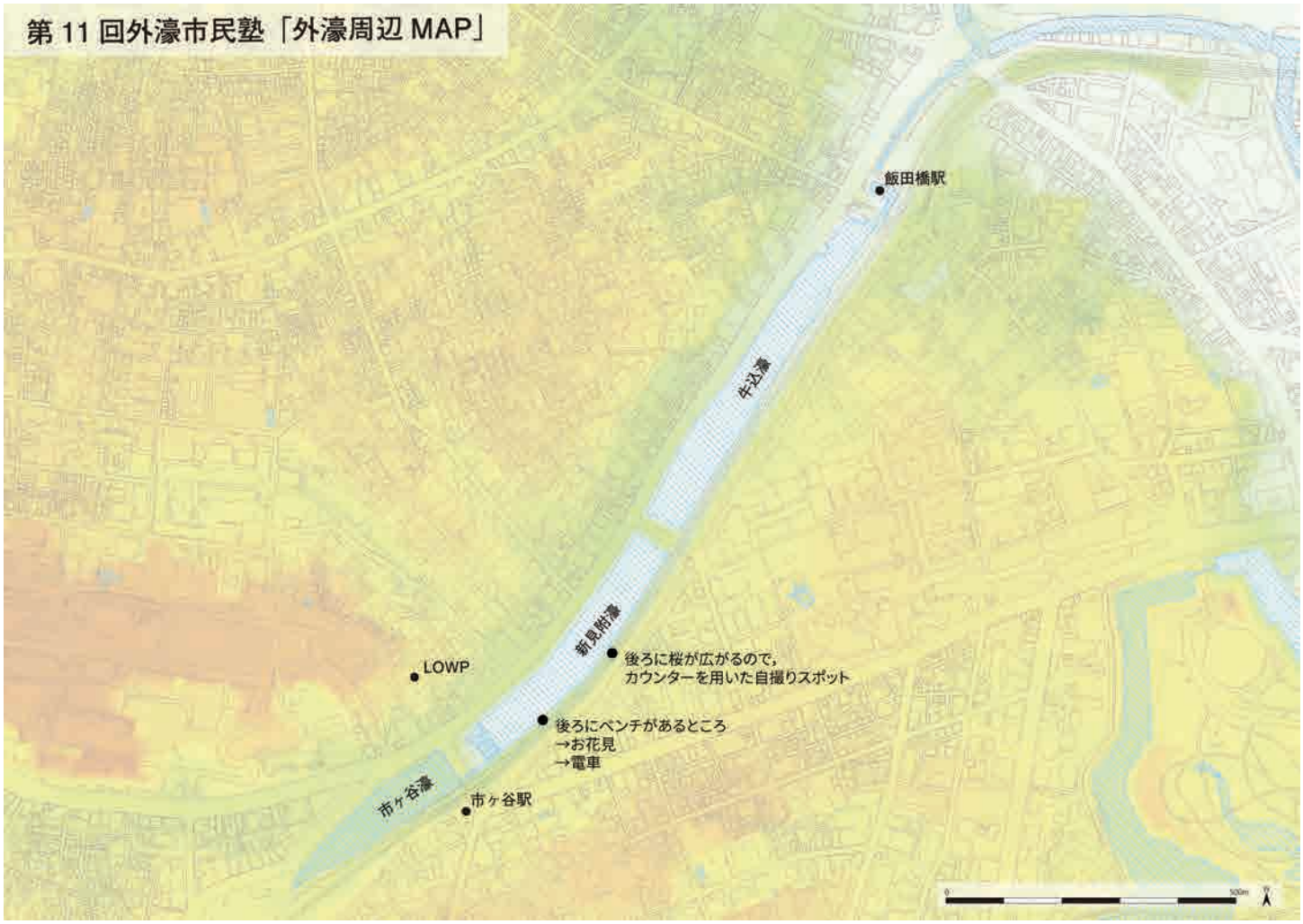
- 夏は木陰で涼しめる空間になります。
- 公園と道路のレベル差が比較的少なく、病院関係者をはじめ多くの人に寄ってもらいやすいエリアです。

推し映えスポット

おしゃべり空間


飯田橋駅前

Group B



公園内の見晴らしの良い場所

- 濠の方向を意識して設置場所を探すことで、見晴らしの良い場所を発見しました。カウンターを利用することで外濠公園と外濠の桜を両方同時に楽しめます。

自撮りスタンド

- 外濠公園内の既存のベンチを活用して、集合写真をとることができます。さらに、カウンターの柄を構図内に映り込ませることができます。
- 春には、桜を背景にできます。お花見では人気のない通路の利用促進のきっかけにもなります。

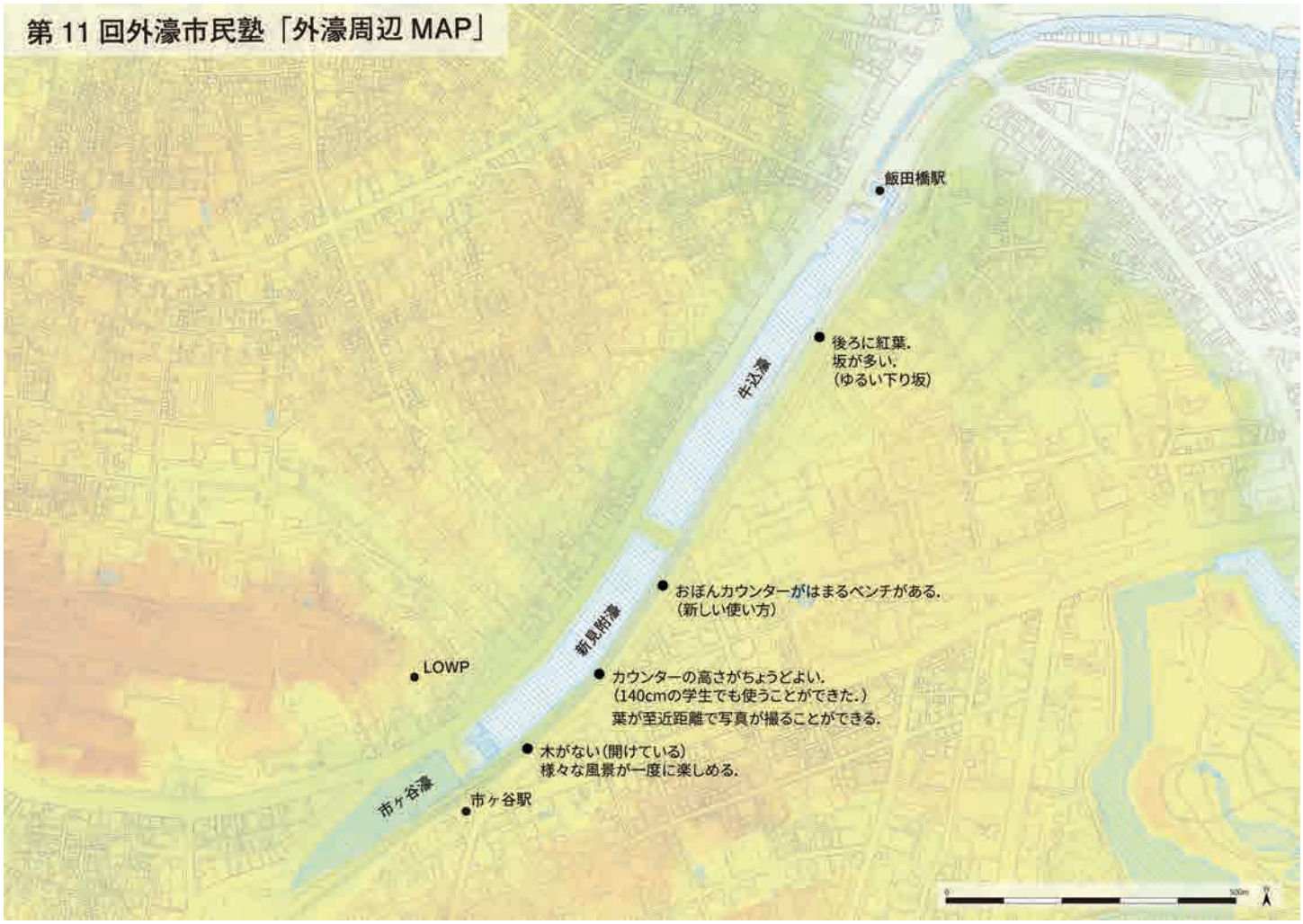
おぼんカウンターを使って自撮り

おぼんカウンターの柄も活用！

自撮りスタンド

撮影の様子

Group C



自然を感じられる場所

- 手すりが低く、子供でも使いやすそうでした。
- 木の葉が近く、自然をより身近に感じることができます。

外濠公園も楽しめる

- 振り返ると紅葉があり、外濠にも木々がたくさんあるので、2度楽しむことができます。
- 周りに坂がたくさんあります。

ベンチ

- 写生をするときのパレット置きとして使うことができれば、既存ベンチのさらなる活用にも繋がります。

見晴らしの良い場所

- 釣り堀や外濠、ビル、道路が一度に見渡すことができます。対岸が見えて見晴らしが良いです。釣り堀が見えることによって、外濠を楽しむ人の風景を見ることができました。
- 外濠公園に入ると少し落ち着いた雰囲気になる。興味をもったおじさんが喋りかけてくれました。
- 一方で、手すりが高く、少し使いづらかったです。

発見！ベンチでも使用可能！

見晴らしが良い場所

自然を感じられる

所感

外濠市民塾実行委員会

福井恒明　（法政大学）

前回開催から1年3ヶ月、この間、法政・理科大・中大の総長学長連名による東京都知事への外濠再生の提言を行い（2019年9月）、その内容が東京都の長期計画に採用され（2019年12月）、外濠再生の活動が勢いづいたところでコロナ渦となりました。多くの一般の方を集めるイベントが困難になるなかで、限定的ながら外濠市民塾の活動を再開できたのは本当によかったと思います。

「おぼんカウンター」は外濠を使いこなす仕掛けとしてかなり前から構想していたものですが、今回ようやくプロトタイプができあがりました。実際に作ってみて、ペイントしてもらい、使う状況を想定してみる作業は思いのほか心躍るものでした。参加してくれた三輪田学園の生徒さんには大学生より素直なデザインと場所を見る目を披露してもらいました。自主的に動いて綿密に企画を議論してくれた学生スタッフのみなさんには心から敬意を表します。大人チームはみなさんのアイデアを展開していく方向に知恵を絞ります。

郷田桃代　（東京理科大学）

2020年4月より本活動が新体制となりましたが、コロナ禍で大きく行動制限される中、これまで活動を牽引してきた教員・学生が主体となり、「できることを見つけ出す」という精神で地道に活動を持続してきたことが、今回の外濠市民塾の開催に繋がりました。また、今回の外濠市民塾は、コロナ感染防止を徹底するなど、withコロナの時代における活動のあり方を示す機会にもなったと思います。

「おぼんカウンター」という明快なコンセプトの仕掛けは、初参加の学生・教員にも馴染みやすく、また、三輪田学園の生徒の皆さんもすぐに主旨を理解して、個性ある着彩や使い方を披露してくれました。なにより楽しみながら取り組める仕掛けは、市民塾のような活動にはとても重要だと再認識しました。今後、構想の拡がり、様々な展開を期待できます。今回、学生の皆さんの企画から実現に至るまでの実行力にも大変感心しました。豊かな財産としての外濠で、「公共空間を使う」「風景をつくる」ことを通して、関わる人をより多く巻き込んだ活動に展開させるよう、皆で考えていきましょう。

高道昌志　（東京都立大学）

今回の外濠市民塾はこれまでにない難しい状況下での開催となりました。当初、「おぼんカウンター」の設置は5月の開催を予定していましたが、新型コロナウィルス感染症の流行によって、開催の延期と計画の変更を余儀なくされてしまいました。11月に参加者を限定したかたち（一般参加者なし）での開催を決めてからも、感染状況の先行きが不透明な中、参加者や会場の調整などで苦慮を重ねることになりました。この期間、運営委員の体制もオンラインが中心となり、メンバー同士の意思疎通にも難しさを感じる場面が少なからずあったように思います。おそらく日本中が経験したであろう変化の渦中に、外濠市民塾もまた置かれていました。

しかし、こうした試練がときにチームの連帯を鍛えることもあります。延期を決定してからの半年間は、結果的に新たな体制を構築していくためのよい助走期間となりました。この期間、大人数で集まることが出来なかった反面、小グループによる活動が積極的に行われていました。特に学生メンバーによる自主的なグループワークの積み重ねが、今回の企画を成功に導きました。感染症対策を踏まえた「おぼんカウンター」の製作工程や当日の進行に関しても、学生メンバーが大いに活躍しました。こうした主体性が発揮されたことは、この半年間の大きな進歩といえます。

取り組みの成果についても触れておきたいと思います。今回は会場として外濠沿いにある会社兼店舗である「Lowp」のワークスペースを、ご厚意によりお借りすることができました。こうした周辺施設との連携は、これまで外濠市民塾が切望していたテーマのひとつでした。今後もつながりを重ね、地域との関係をより深めていければと思います。また、メンバーが実際に手を動かし、モノづくりに取り組めたことも今回の企画の成果であったといえます。外濠の魅力を引き出す家具や道具を自らが考案し作り出していく経験は、今後の外濠市民塾の活動に新たな広がりを与えてくれるに違いありません。今後の活動の方向性として意識していければと思います。

学生スタッフ

堀越義人　（法政大学）

新体制となった4月、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外濠市民塾幹事会の活動はオンライン会議にシフトしていきました。活動が制限される中、オンライン会議の利点を活かし、これまでの活動を振り返り、組織としてのあり方や活動の方向性などを共有することができたことは、今後の外濠市民塾にとっても貴重な時間であったと確信しています。第11回の開催直前に強いられたコロナ対策についても柔軟に対応できたことは、議論を積み重ねる中で生まれた学生間のチーム力が発揮された結果だと思います。

三輪田学園の学生と共に完成させた「おぼんカウンター」は、まだまだたくさんの可能性を秘めていると思います。第11回の活動で「実践」というフェーズを実現し、その第一歩を踏み出したことは非常に嬉しく思います。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける中で、本企画の開催のために尽力してくださった外濠市民塾幹事会の皆様や三輪田学園の皆様には深く感謝申し上げます。

建内香子　（東京理科大学）

外濠市民塾の活動に今回より参加しました。また、オンラインと対面での活動を組み合わせてまちづくりの活動する初めての経験となりました。事前準備ではオンラインでの打ち合わせが主となりました。プロジェクトの途中からの参加でしたが、学生スタッフのみなさんからの「いいねマーク」の反応で参加しやすくなりました。あたたかく迎えてくださった皆さまに感謝しております。

活動当日では、参加した高校生とおぼんカウンターを使える場所を探しました。カウンターを自分で置くことで、単なる通学路ではなく、少しでも滞在できる場所として意識しやすくなると感じました。おぼんカウンターに地域の高校生のペイントが残っていることが、ものを介して地域と繋がっていく事を表していて、いい企画だと思いました。今回の参加を機に外濠や市民塾の活動を学ばせていただきました。今後の外濠市民塾の活動へつなげていきたいと思います。

品田康太　（日本大学）

第11回の外濠市民塾では、Lowpさんに場所を提供していただき三輪田学園の生徒さん達と「おぼんカウンター」のペイント作業と実際に外濠公園を歩きどこでどのように使うのかということについて話し合いました。

私自身、初めて準備段階から市民塾の活動に参加しました。その中で、学生会議の内容が企画の中にダイレクトに影響を及ぼすことに驚かされまた、当日のスケジュールやコロナウイルス対策なども最終決定は先生方に任せましたが学生が行っており、先輩方の会議に対する姿勢など私にとっても学ぶべきことがとても多かったです。

三輪田学園の生徒さん達には、事前に私たちがペイント作業を行った時とは違った発想でペイントする姿や柔軟性に驚かされました。また、「おぼんカウンター」の利用方法を考えている時には様々な人が集まったからこそ考え付いたと思う案がいくつもありました。これからも外濠を楽しみさらに、活用できるように地域を巻き込みながら活動を行なっていきたいと思います。

安武覚　（東京都立大学）

春からリモートでの打ち合わせを重ね、コロナ禍でも出来ることかつ次のステップにも繋がるような内容をメンバーでたくさん意見交換してきました。企画に対する「学ぶ」「考える」「実践」というフェーズごとの位置づけを再確認できたことで、今後の段階的な取り組みを考えていく機会にもなりました。「外濠vision」という大きい目標に向け、「外濠BAR」という中くらいの目標の設定と「おぼんカウンター作成」という小さな実践を経て、次はどんなことができるだろうと自ずと考えやすくなった実感があります。当日は三輪田学園さんと共に、実際におぼんカウンターが使えそうな場所を考えていきました。自由に取り付け可能なこのカウンターは、より良い場所を探そうとしていくうちに、外濠の空間を “使っていく” ことを自然と意識させるとても良いコンテンツだと改めて感じました。また、電通tempoさんやLowpさんといった地域の担い手も少しずつ巻き込んでいき、連携を開始できたことも大きなプラスになったと思います。

三輪田学園高等学校

小磯縁衣　（三輪田学園高等学校）

今回初めて外濠市民塾の活動に参加させて頂きました。 おぼんカウンターの活用法を探していた時、グループの雰囲気がとても温かく自分の意見を述べやすかったこともあり、沢山自分のアイデアを楽しく出すことができました。自分の意見が採用され、皆さんの前で発表した所がとても好評だったことも嬉しかったです。大学生の方からのアドバイスや交流があったからこそ私も積極的になることが出来ました。 自分が学校の近くの身近な外濠に関わることができて嬉しいのと共に、沢山の方におぼんカウンターを広めて行けたらいいなと思いました。また別の活動にもぜひ参加させて頂きたいです。

松山莉子　（三輪田学園高等学校）

今回初めて外濠市民塾さんの活動に参加させていただきました。今まで何気なく毎日通っていた外濠をおぼんがおける場所を探しながら歩くことで、外濠についての新しい発見や、外濠の大切さを改めて実感することができました。コロナ禍ではありましたが、活動に参加させていただきありがとうございました。

田中杏果　（三輪田学園高等学校）

おぼんカウンターの感想です。 おぼんカウンターペイントではデザインが思いつかず、好きな色を重ねて何とか完成させましたが楽しかったです。チームごとの発表を聞いて、自分には思い浮かばなかったおぼんカウンターの活用方法が、たくさんあり面白いなと思いました。活動に参加できてよかったです。

杉山美礼　（三輪田学園高等学校）

今回初めて外濠市民塾に参加させていただきました。大学生とお話させていただき外濠の今まで知らなかったことや、綺麗な景色を見つけることができました。おぼんカウンターを作ったことで私は外濠の魅力を見つけることができたので、ぜひ多くの方に使っていただき外濠の魅力を探していただけると嬉しいです。外濠市民塾の皆様、ありがとうございました。

福岡春香　（三輪田学園高等学校）

今回の外濠市民塾のおぼんカウンター作りの活動に参加することで、毎日何気なく使っている外濠の道の雰囲気や大学生の方との会話で見つけた外濠の季節ごとのいい一面など、自分で作った物を置くことによって外濠の意外な一面を発見することができました。また、複数人で意見を出し合うことができる活動に参加することができ、とても楽しかったです。

吉田珠美　（三輪田学園高等学校理事長）

外濠市民塾の活動に参加させていただいて、5年目になります。その間、様々な活動に参加させていただき、本当に有難く思っています。昨年度はコロナ禍のため、本校も大学も休校となり、活動は休止となるのかと生徒たちもがっかりしておりましたが、そんな中、おぼんカウンターの制作に係わらせていただき、楽しい時間を過ごしました。とはいえ、高校生の作業は絵付けと設置場所と利用方法を考えながらの散策との2つだけで、本当に大変な準備は全て学生の皆さんや大学の先生方にしていただきました。いつもながら、感謝申し上げます。外濠公園の濠に面した手すりにカウンターを設置して、そこで濠の水面を眺めながらコーヒーを飲むなんて、ステキだなと思いました。（しかし、このところ問題化している外呑みの方々にはお貸しできませんね。）ベンチの手すりにも設置できることを発見した生徒が大喜びしており、使い方も広がっていきそうです。今後も是非この活動に参加させていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。